

# 平成 30 年度 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 30 年 10 月 9 日（火） 午前 9 時～午前 11 時

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者

荒尾市長	浅田 敏彦
荒尾市教育長	永尾 則行
荒尾市教育委員	境 民子
荒尾市教育委員	西尾 直子
荒尾市教育委員	泉 亜矢
荒尾市教育委員	旭田 國浩
(事務局職員) 総務部長	石川 陽一
政策企画課長	田川 秀樹
政策企画課政策経営室長	林田 真司
政策企画課主事	丸本 真由子
教育次長兼教育振興課長	前田 偉知雄
教育委員会特命担当次長	清水 良郎
教育振興課教育審議員	西嶋 徹
教育振興課指導主事	川富 一弘
教育振興課指導主事	大塚 真史
給食センター所長	田上 智子
教育振興課課長補佐	松井 敏彦
生涯学習課長	宮脇 浩司
生涯学習課社会教育係長	馬場 理恵子
生涯学習課スポーツ推進係長	前田 恵子
生涯学習課文化係長	吉村 麗月

4. 傍聴者 無し

## 5. 議事

- (1) 荒尾市教育振興基本計画に基づく平成 29 年度の取組み状況について
- (2) 学校教育に関する取組み
- (3) 生涯学習に関する取組み
- (4) 教育施策全般に関する意見交換

## 6. 議事経過の概要

以下のとおり

## ○議事経過の概要

### 1. 開会

田川政策企画課長が、開会の宣言及び配付資料の確認を行った。

### 2. 市長あいさつ

浅田市長が、あいさつを行った。

- ・本市では、「あらお未来プロジェクト」を重点戦略として定めており、子どもたちを地域みんなで育てていくことを1番目の柱に位置付け、様々な施策に取り組んでいる。
- ・「あらお未来プロジェクト」の教育政策について、昨年度の取組みや今年度の新しい取組みについて情報を共有し、委員の皆様から様々なご意見をいただきたい。

### 3. 議事

以降の議事については、浅田市長の進行により協議を行った。

(1) 荒尾市教育振興基本計画に基づく平成29年度の取組み状況について前田教育次長兼教育振興課長及び宮脇生涯学習課長が、資料1に基づき説明を行った。

#### <主な意見等>

浅田市長	平成29年度の体力テストの結果について、平成28年度と比較して県平均を上回る項目が小中学校共に大きく減少しているが、要因は何か。 →まだ要因分析ができておらず、今後分析していきたい。 (前田次長)
永尾教育長	体力テストの結果が平成28年度から急激に悪化している理由として、中学校は部活動の加入率の低下や、女子で運動をしない子が増えてきたことが考えられる。小学校については、例年結果があまり良くない。平成28年度に小学校の結果が良かった理由として、体力テストを行う時期を、年度当初の慌ただしい時期から5月の連休明けに変更したことで、テストの説明を十分に受けられたことが考えられる。
境委員	PDCAサイクルにおいて、荒尾市教育振興基本計画を立てたあとのC(評価)はいつ行うのか。既に評価出来る施策に関しては常時行ったほうが良い。A(改善)まで終えたら、それを踏まえて、計画を練り直す必要がある。

取組状況に、学校教育の最重要課題である「確かな学力」を身につけるためと記載されているが、荒尾市教育振興基本計画では、基本的施策である「確かな学力の育成」が重点施策になっていない。PDCAを実施する中で見直しをするのであれば、「確かな学力の育成」を重点施策に追加していただきたい。

「英検 3 級相当の学力のある生徒の割合」の数値目標において、英検 3 級とは中学卒業程度のレベルのため、平成 33 年度の目標である 30%については、更に上の目標を設定してはどうか。

様々な事業や業務を行う上で、PDCA サイクルをしっかりと機能させることが課題だと考える。

浅田市長

荒尾市教育振興基本計画において、「確かな学力の育成」が重点施策になっていない理由は何か。

永尾教育長

荒尾市教育振興基本計画を策定する際の議論の中で、確かな学力の育成というのは当然のことであるため、他の項目を重点施策とした。長年、確かな学力の育成が第一の目標ではあったが、なかなか実績が伴わなかった。

浅田市長

本市の子どもたちの学力が、全国平均を大きく上回る等の実績があれば良いが、長年の課題を達成できていなければ、やはり力を入れるべき一番の重点施策にしておかなければいけない。学力問題を荒尾市教育振興基本計画の中でどのような位置づけにするか検討していただきたい。

→ 荒尾市教育振興基本計画については、評価委員会を年 1 回開催している。評価委員会での評価を基に、新たな PDCA サイクルを回すようにしている。荒尾市教育振興基本計画を始めて 1 年が経過し、平成 29 年度の実績が出ている中、今回、総合教育会議で委員の皆様にもご意見をいただきながら、今後見直し等を進めていきたいと考えている。

また、英検 3 級についてはご指摘の通り、目標が低いと思っている。国の目標である 50%を念頭において取り組んでいきたい。(前田次長)

旭田委員

先日開催された中体連にて、本市の中学生が入賞しており、非常に頑張っている印象を受けた。先生方も生徒と一緒に頑張っている。

泉委員

小学生の夏休みの宿題で、荒尾市の文化財について調べることがあり、図書館に行ってみたが、小学生が理解できるような文化財に関する本がなかった。荒尾市教育振興基本計画で郷土学習の推進を重点施策として設定されているため、図書

館に子どもたちや市民に解り易い資料が充実すると良いと思う。

→現段階では子ども向けの資料はない状況である。各学校から、授業の中で本市の文化財に関する講座の依頼があれば、市役所の職員で資料を準備し、学校へ出向いている。子ども向けの資料を図書館へ置くことについては、今後検討したい。(宮脇課長)

浅田市長

子ども向けのパンフレット等は図書館に置いてあるか。  
→個別の活動毎のパンフレットは図書館にも置いてある。文化財全般に関するパンフレット等は置いていない。(宮脇課長)

境委員

国際交流については、荒尾の場合は中国が中心である。外国との交流は何かきっかけがないと生まれない。例えば、干潟にくる渡り鳥を利用する等、他国とのつながりが出来るような仕掛けをすると良いと思う。また、民間企業でも国際交流に取り組んでいるため、それをバックアップすることで、外国語にも興味が出てきたり、外国との交流も深まってくると思う。

永尾教育長

本市で作成している「わたしたちの荒尾市」という郷土学習資料を、いま小学校3年生が使用している。しかし10年前から改定していないため、万田坑や荒尾干潟のことについては記載されていない。これを今年作成し、来年度末までには完成させる予定である。

境委員

干潟や炭鉱、梨、宮崎兄弟、岩本橋などの歴史的背景等について、小中学校の先生方やご年配の方からの話を聴ける講座を開設していただくと、荒尾が好きになる子どもが増え、また、親子で学ぶことも出来て良いと思う。

浅田市長

環境省が蔵満海岸に利用拠点施設を整備し、来年7月頃の完成予定である。干潟や渡り鳥のことについて学ぶことができ、環境学習に非常に適しているため、まずは地元の方々に来てもらい、国内外へもPRしていきたいと考えている。

## (2) 学校教育に関する取組みについて

前田教育次長兼教育振興課長から、資料2に基づき説明を行った。

<主な意見等> 授業改善アドバイザー活用事業について

浅田市長

授業改善アドバイザー導入後の手応えはいかがか。  
→先生方の、あらおベーシックによる授業改善への意識は

高まってきている。今後の方向性としては、子どもたち全員が参加するような授業手法を取り、来年度以降は授業の質を高めていく必要がある。（西嶋審議員）

浅田市長

荒尾市での教育内容の成果をもっと対外的にアピールしたほうが良い。

→周知を目的とした教育フォーラムのようなイベントを開催できないか検討している。（西嶋審議員）

境委員

勉強に関しては以前と比較してデジタル化が進んでいるが、昔ながらの学習をしてきた大人には、デジタル化の必要性や現代の教育用語が理解しづらい部分がある。時代の変化に伴い、子どもたち自身が課題を見つけ、解決するために他人の意見を聴いたりインターネットで調べたりするような勉強の仕方に変わってきていることへの理解促進を図る必要がある。

旭田委員

今年、何校か小中学校を訪問した際に、数年前と比較して、子どもたちの授業に取り組む姿勢が向上していると感じた。

西尾委員

低学年は学習リーダー（司会進行）を決めて授業をすることで、自分が主役になることに喜びを感じている。1クラスの人数が多い学校と少ない学校を訪問した際に、特に低学年は、1クラスの人数が少ないほうが先生が目もよく行き届き、子どもが様々な発見をしたときに、掛ける言葉も多いと感じた。また、幼稚園・保育園から小学校へ進学したときに、急に授業という形に入って戸惑いを覚え、45分間座っている状況に慣れない子どももいるため、低学年の間は少人数クラスのほうが良いと思う。

永尾教育長

授業改善と併せて、小中学校の先生を対象とした育成塾を開講している。先日開講した際には、小中学校の先生100名が自主的に受講し、多くの先生が授業改善に取り組んでいることが分かる。

泉委員

学校訪問した際に子どもたちが授業の中で話し合いをしており、それを聴いていると、自分の意見を明確に伝えるための語彙力が必要だと感じた。言葉をたくさん覚えることは重要であるため、図書室を整備することで本に興味を持ち、本を充実させることで、学力向上につながっていくのではないかと考える。

<主な意見等> 小学校の運動部活動の今後の在り方について

浅田市長

体育協会等との相談はできているのか。

→ 体育協会には相談しており、小学校の運動部活動の社会体育移行をチャンスとして、何か新たな活動を行っていただきたいという話をしている。また、地域のスポーツクラブとして、総合型地域スポーツクラブである中央ふれあいスポーツクラブがあるが、会員が増加しており、現在、入会を受け入れていない種目もある。中央ふれあいスポーツクラブには様々な種目があるが、種目によっては指導者が不足しているという課題がある。いま活動している種目についても、活動に支障がない数の指導者は確保されているが、これ以上指導者を増やすことは難しいとのことである。民間のクラブチームでも会員が増加しているが、そこでも指導者の確保に苦慮している状況である。(宮脇課長)

<主な意見等> 教育 ICT 整備について

浅田市長

本市の教育への ICT 整備は、県内でも遅れている状況であるため、国が示している「教育の ICT 化に向けた環境整備 5 か年計画」に基づき、本市でも ICT 整備計画を策定し、ICT 整備に力を入れていきたい。

境委員

指導者の不安感を取り除いて授業に臨めるようにしていただきたい。育成塾のように、自主的に学習できるような場があれば良いと思う。

<主な意見等> 施設の整備状況について

浅田市長

エアコン導入後、中学校から何か意見や要望等はないか。

→ 特に苦情等はあがっていない。(西嶋審議員)

旭田委員

給食センターについては、長洲町も共同で運営することに対して意思決定しているのか。

→ 正式決定はまだ出来ていない。長洲町では、第三者機関を立ち上げて最終的にどうするのか協議を進めている。(前田次長)

(3) 生涯学習に関する取組みについて

宮脇生涯学習課長から、資料3に基づき説明を行った。

<主な意見等> 地域学校協働活動事業について

境委員

地域学校共同活動は、定年退職者の協力が必要だと思う。元気な定年退職者を発掘して活用できるような啓発活動をしていただきたい。

→ 荒尾市は様々な活動に取り組んでおり、県からも評価していただいている。地域未来塾では、学習支援ボランティアとして、定年退職された先生方、九州看護福祉大学や有明高専の学生等に協力していただいている。定年退職者は貴重な戦力であるため、人材の発掘と活用については、今後の課題だと認識している。(宮脇課長)

<主な意見等> 孫文記念館交流事業について

旭田委員

宮崎兄弟の生家に訪問された外国客とは、どのような人たちか。

→ 大半が中国からの訪問である。平成29年度については、観光客が多いが、中国の博物館の団体客や大学の中国文学研究団体等が訪問されている。(宮脇課長)

(4) 教育施策全般に関する意見交換

最後に、教育施策全般について、意見交換が行われた。

西尾委員

荒尾市の人口減少が進む中で、若い人たちが荒尾に住みたくなるような、安心して子育てができるような様々な支援をし、PRしていく必要がある。

また、虐待の問題や虐待が及ぼす影響等についての学習を、中学校から高校の間にしておくと、自分が将来子育てをする際に役立つと思う。

4. その他

特になし。

5. 閉会

田川政策企画課長が、閉会の宣言をした。